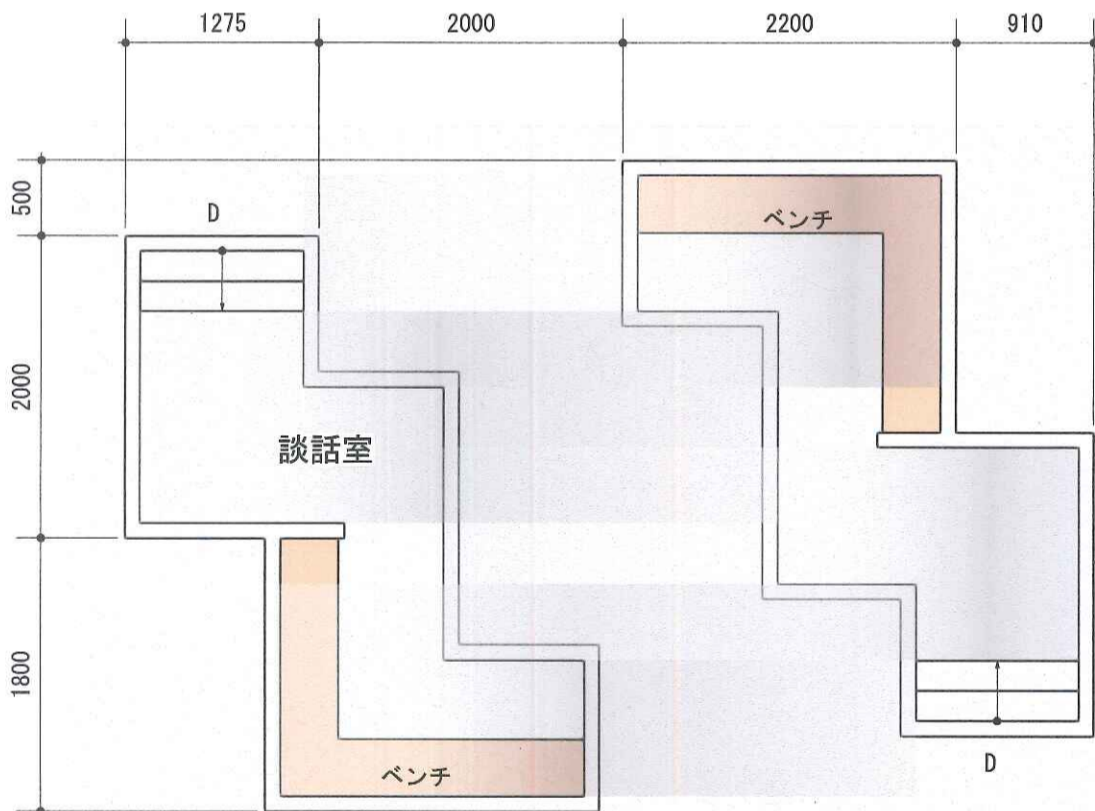
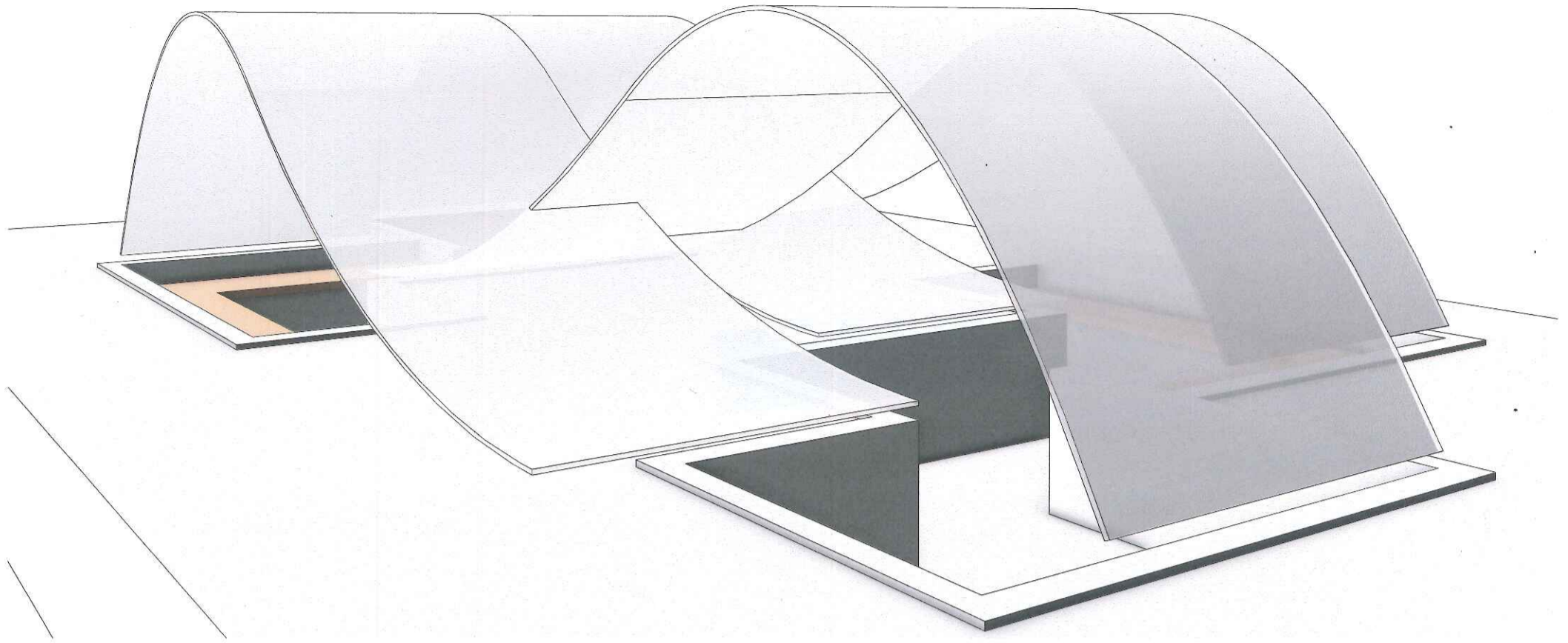
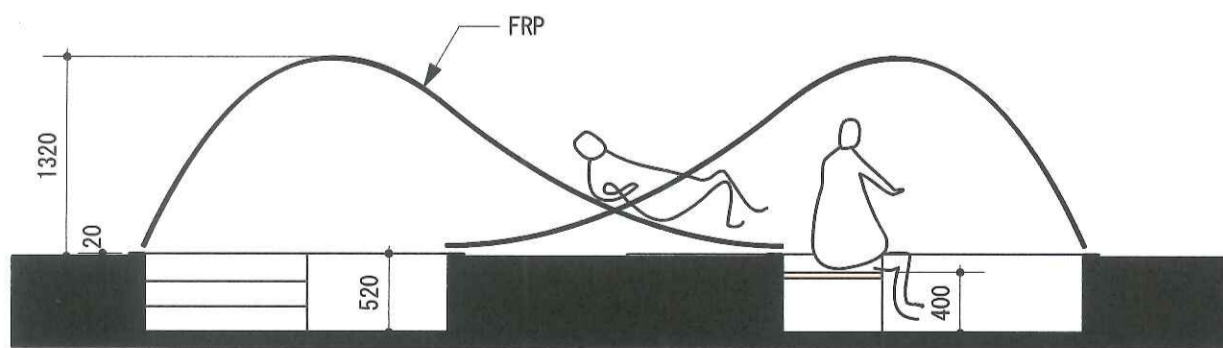


# Wave.

やま・なみ 休憩所



平面図 1/50



断面図 1/50

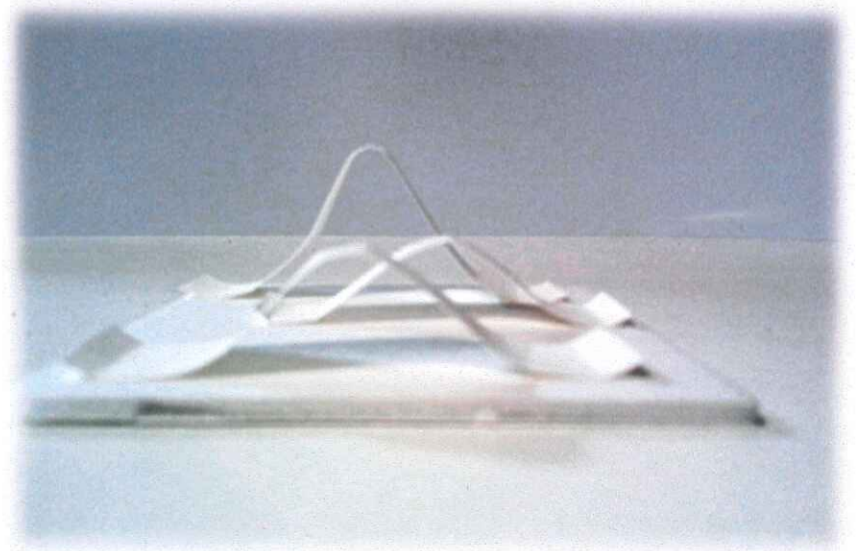
## Concept

やま・なみの融合

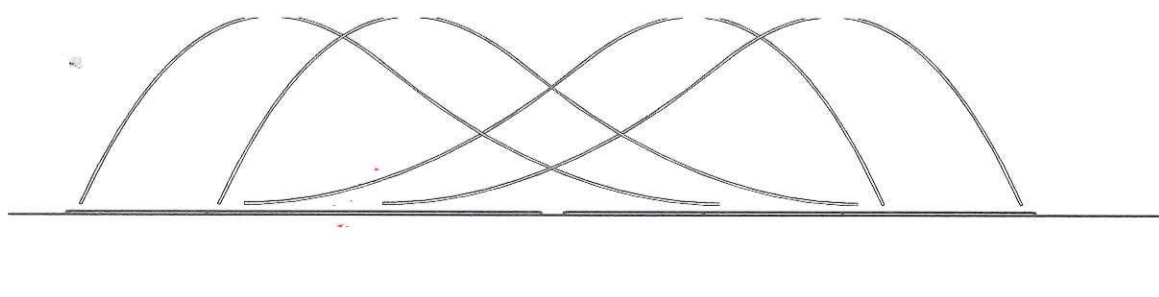
キャンパス付近の親しみのある山並みと波をイメージした。屋根曲線にすることで屋根の上部分に寝転がって休憩できるようにした。

滑らかな形状や、半地下のスペースを作ることで落ち着いて休憩できるような空間に・・・。

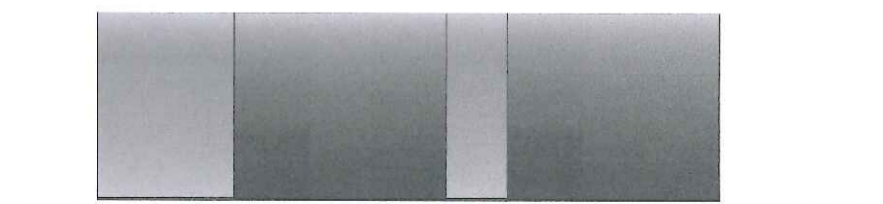
地元の人が憩いの場として使用でき、地元にも愛される休憩所を提案する。



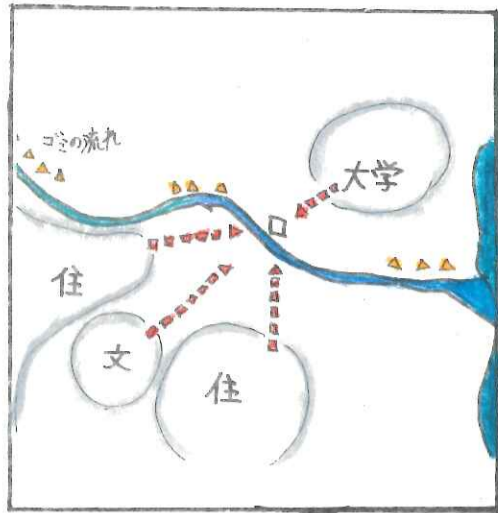
イメージモデル



南立面図 1/50



東立面図 1/50



## 地域周辺図

### ■水族館の思い出

私は幼い頃、家族で水族館に行きました。初めて行った水族館の水槽はどれも大きく、背が低かったこともあって、魚が頭の上を気持ち良さそうに泳ぐ姿を持って、とてもワクワクしたことを覚えています。

### ■海は本当にきれいなのか？

私達は水族館の「青さ」を見て、「海」を想像しますが、最近はネットニュースなどで環境問題で海や川がゴミで汚れていると聞きます。私は今こそ、人間が「水中を感じられる場所」が必要だと思いました。そこで私は、魚目線と私達人間目線で水はどう違って見えるのか体験できる休憩所を考えました。

### ■海底カフェへようこそ！

この建物は、上層（+2500mm）が人目線で水辺を上から観察でき、下層（GL±0mm）が魚目線で、水中を感じられる空間になっています。上下を結ぶ階段は、下に行くほど階段の踏面と幅を大きくし、ガリバートネルのように、自分が小さい生物になっていくかのような体験ができます。

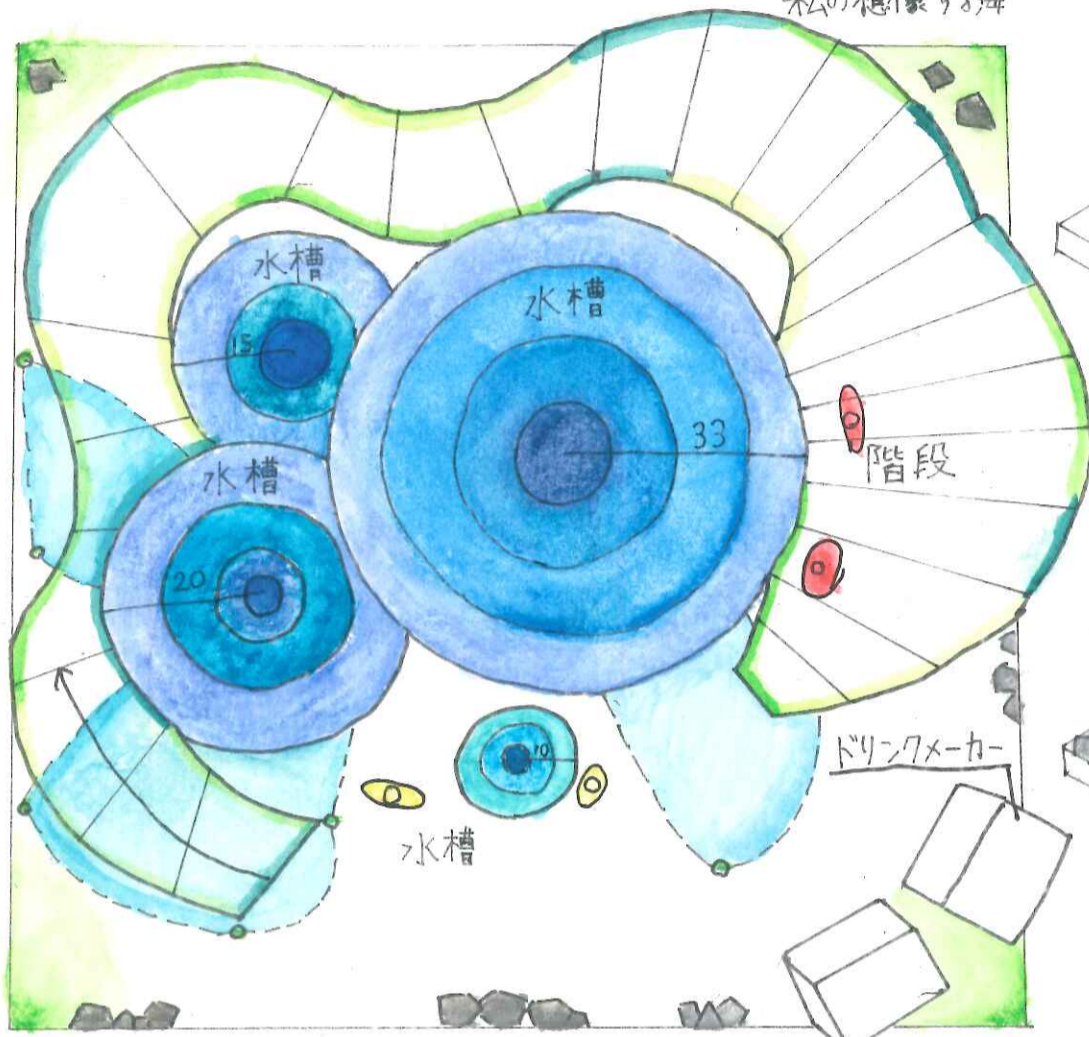
長崎総合科学大学の近くには、水族館や海・川があるため、水は暮らしに欠かせない存在だと思います。だからこそ、ちょっとした休憩スペースでも水に想いを巡らせる時間を設計しました。



私の想像する海

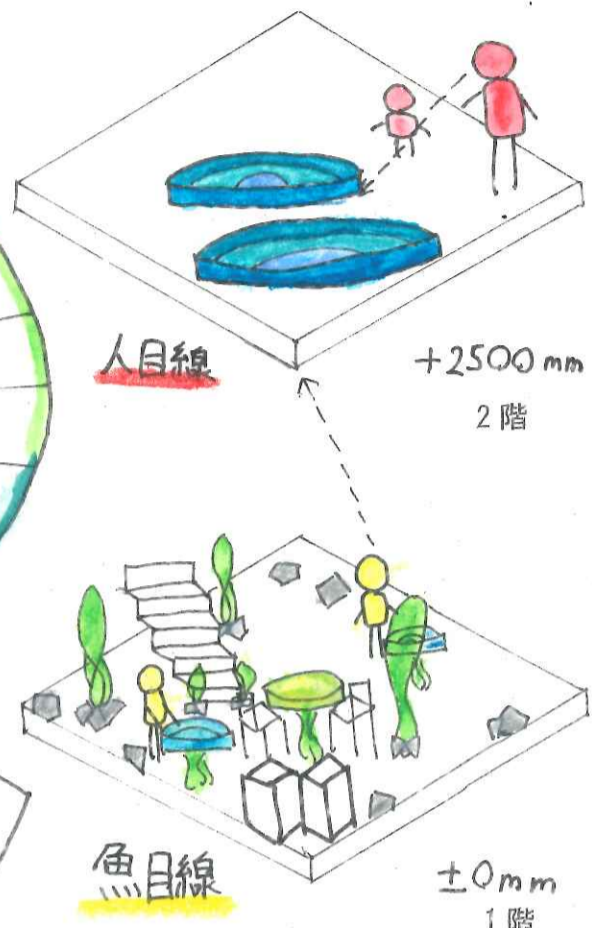


汚れている海



1階平面図

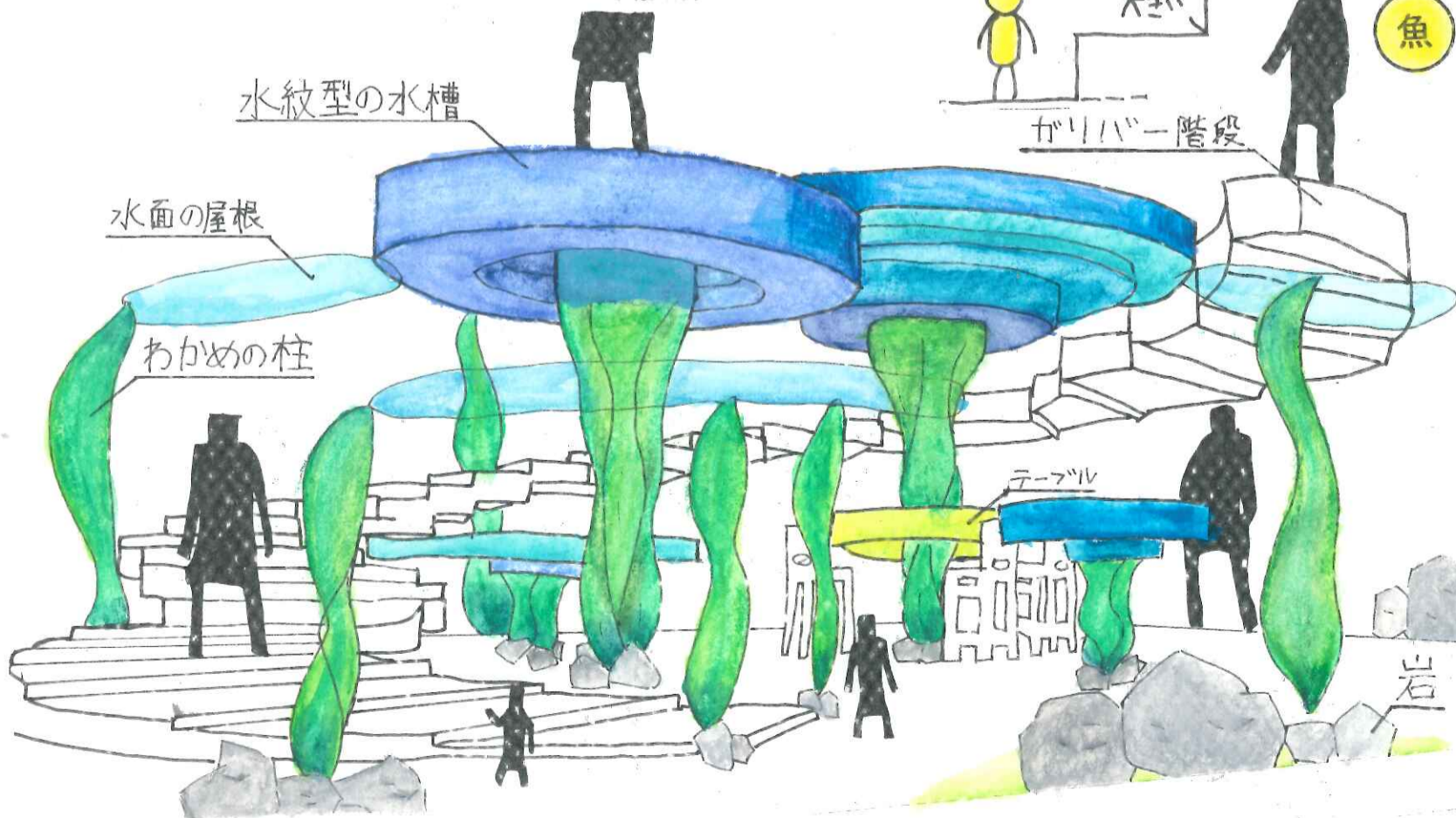
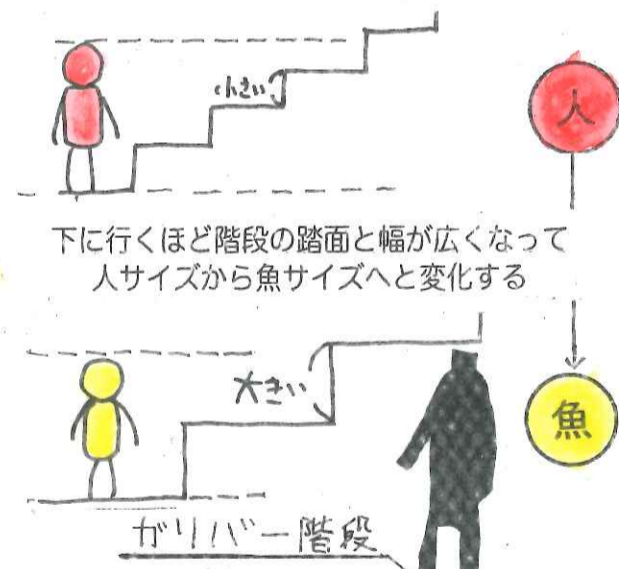
S=1:30



アイソメ図

# ガリバー水族館

## 地域 みんなで学ぶ環境問題



内観パース [魚目線]

人目線

魚目線



# ペンギン ライト ハウス

沢山の人を集めたいという思いからライトハウスをイメージした交流施設です。実際に夜遅く帰宅している高校生や大学生のために夏は午後7時、冬は午後5時半に点灯します。

寄付型自動販売機による水族館への支援を通し、ペンギンの保護や環境問題について考えることを目的としています。

## 寄付型自動販売機とは

寄付型自動販売機とは、自動販売機の売上げ1本ごとに、希望した団体へ寄付をすることができる自動販売機です。

設置オーナーは振込みなどの手間が無く、購入者は気軽に社会貢献をすることができます。

また、自動販売機にオリジナルラッピングを施すこともできるので、啓発効果も期待できます。

地域の催しのチラシを置いたり掲示板に貼ることで、情報交換の場所として活用できます。



最上階の展望台からは、長崎の美しい山と海を眺めることができます。

ガラスは曲線形ではなく、直線のものを用いて経費をおさえつつ、建物としては円形で、親しみやすさと入りやすさを意識しました。

ドアや不透明な壁を作らないことで、外からの監視性を高くし、防犯面にも考慮しました。

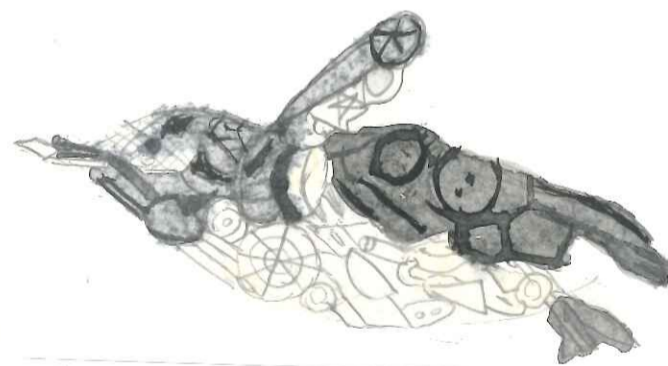
## 太陽光発電パネル

長崎市ゼロカーボンシティ推進事業費補助金を用いて太陽光発電設備を設置します。

年間最大80%も光熱費を減らせる上、大気を汚染せず、発電のための資源を枯渇させることもありません。

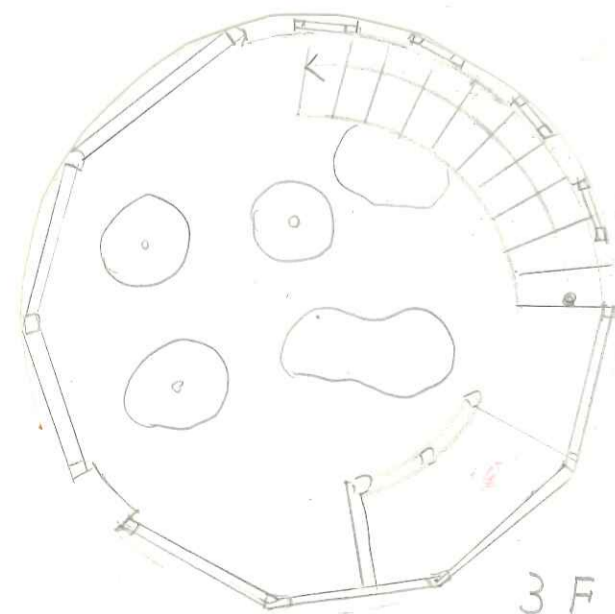
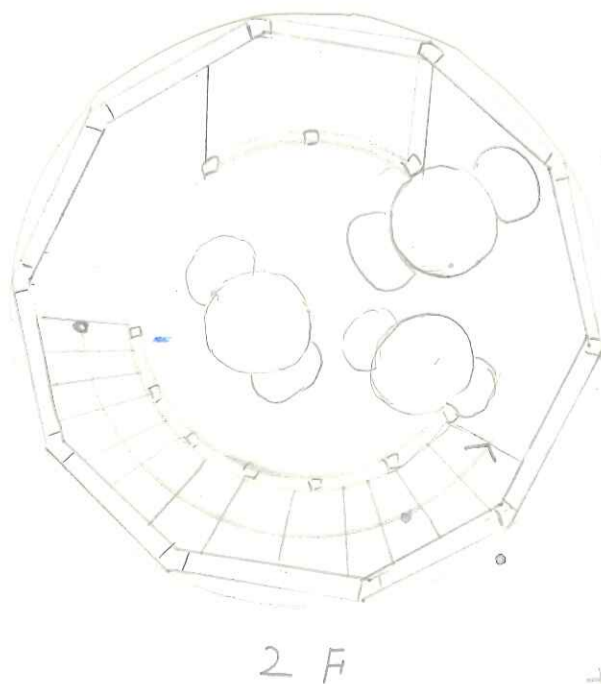
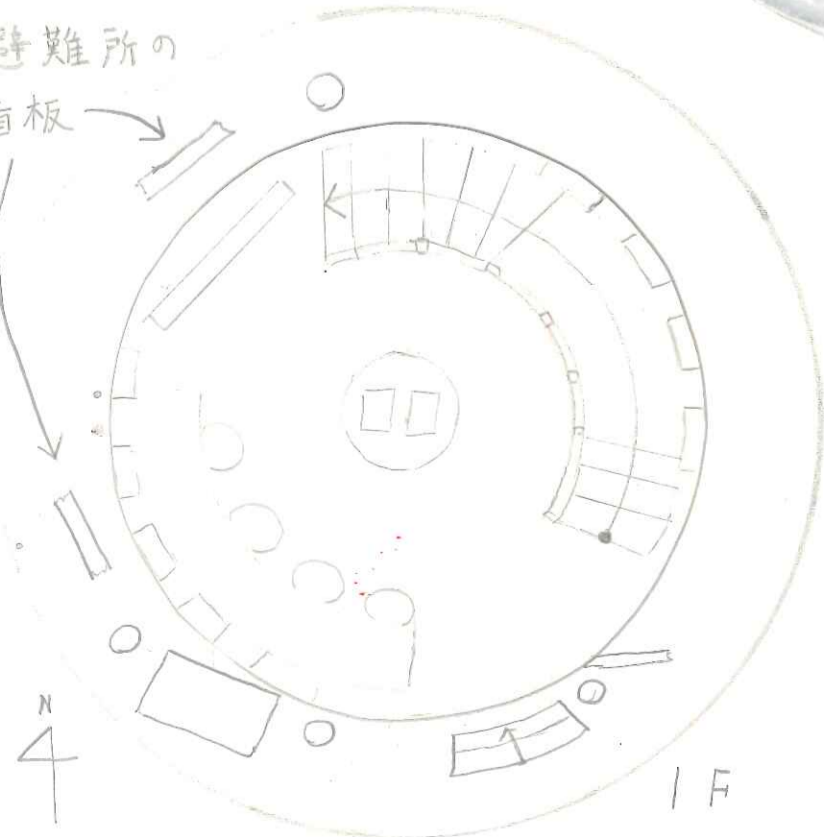
ペンギンを下から見たことはありませんか？

ペンギンを下から見る機会は水族館や動物園でもあまりありません。この建物では上空を飛ぶように泳ぐリアルサイズのペンギンの可愛いお腹を見ることができます。ペンギンは海洋ごみからできており、訪れた人が海洋問題について考えるきっかけを作っています。



土地勘のない観光客や学生のために、災害時の避難所である日見公園、日見地区ふれあいセンターの方向を指し示した看板を設置してあります。

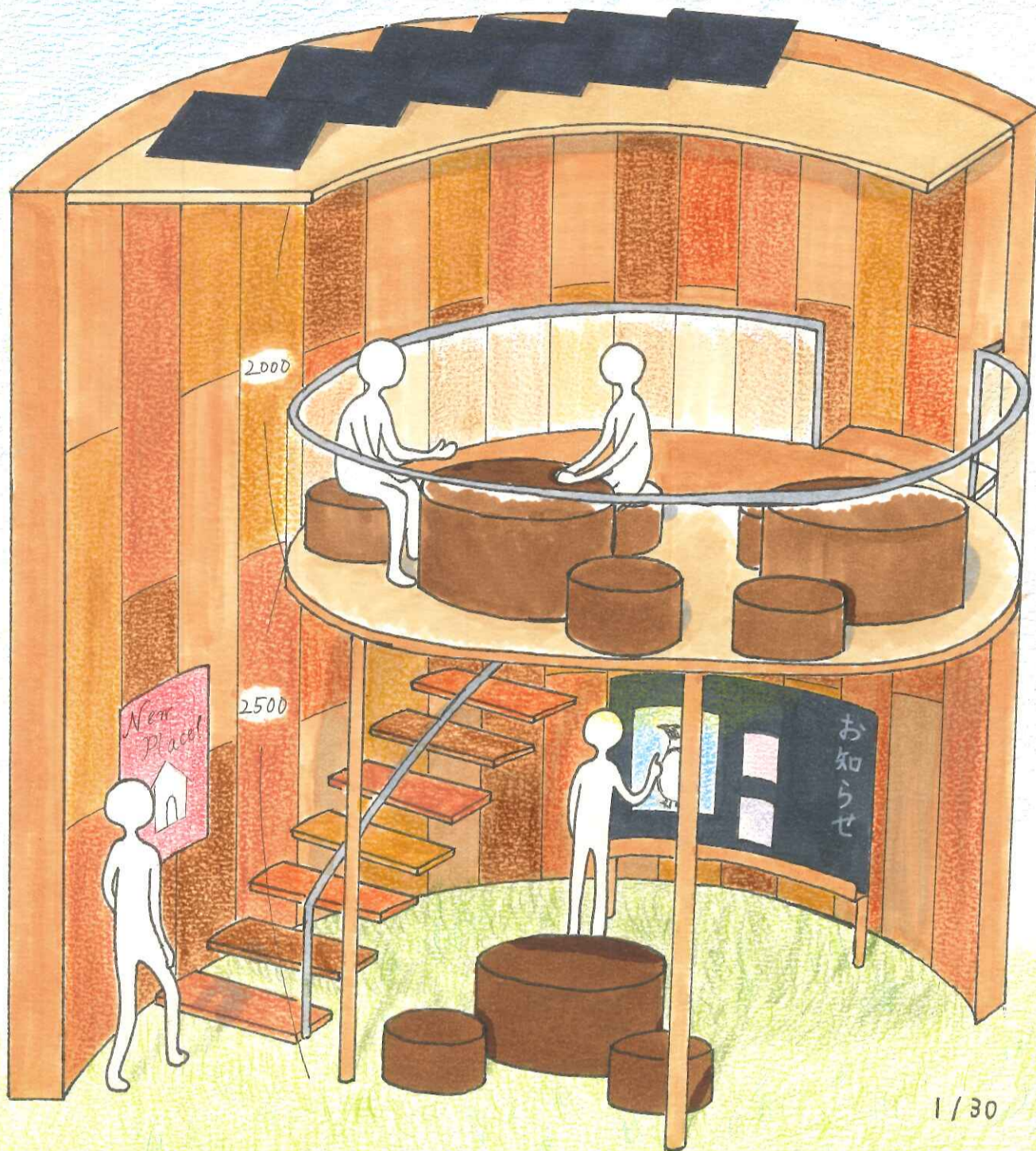
避難所の  
看板



すべての絵は 1:40 です

# まあるい 出会い場

～つい訪れてしまう、そんな空間を目指して～



## コンセプト

立ち寄りやすい空間って...?

皆が交流するには誰もが立ち寄りやすくなくてはならない。そこで、今回私が大切にしたい点は

**開放感**である。

どうしても閉鎖的な空間だと、立ち寄るのをためらってしまう。

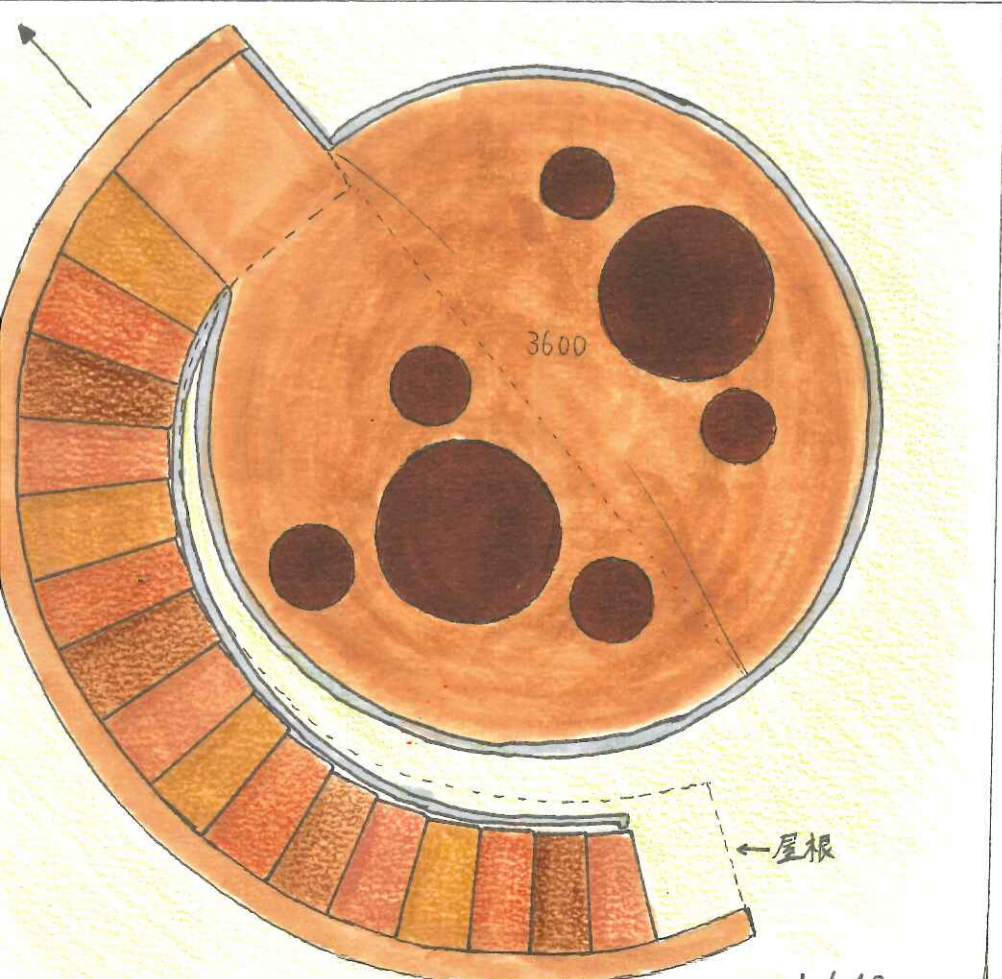
初めて訪れた人でも、つい立ち寄りたくなる、そんな空間を提案する。

開放感  
木の暖かみ  
わくわく感  
詰め込んで  
みました!



1/30

上から見た図



1/40

### Point 1

#### まあるい形

普段の生活の中ではあまり目にする事のない形状となっている。だからこそ、興味や関心を引くことができ、様々な人が立ち寄ることによって、交流が生まれるのではないだろうか。また、この建物が、話のタネになれば、と思う。

### Point 2

#### 二階建て

階段、これまた興味、関心を引くものだ。上からの景色はどんなものかと、つい登ってしまうだろう。二階には机や椅子があるので、団らんにはぴったりである。休憩スペースとしても是非活用して頂きたい。

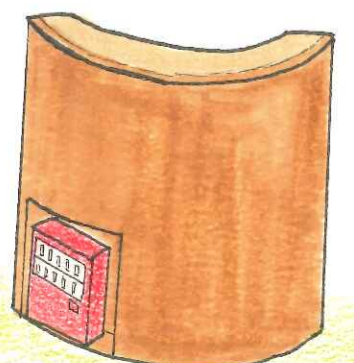
### Point 3

#### ライトアップ

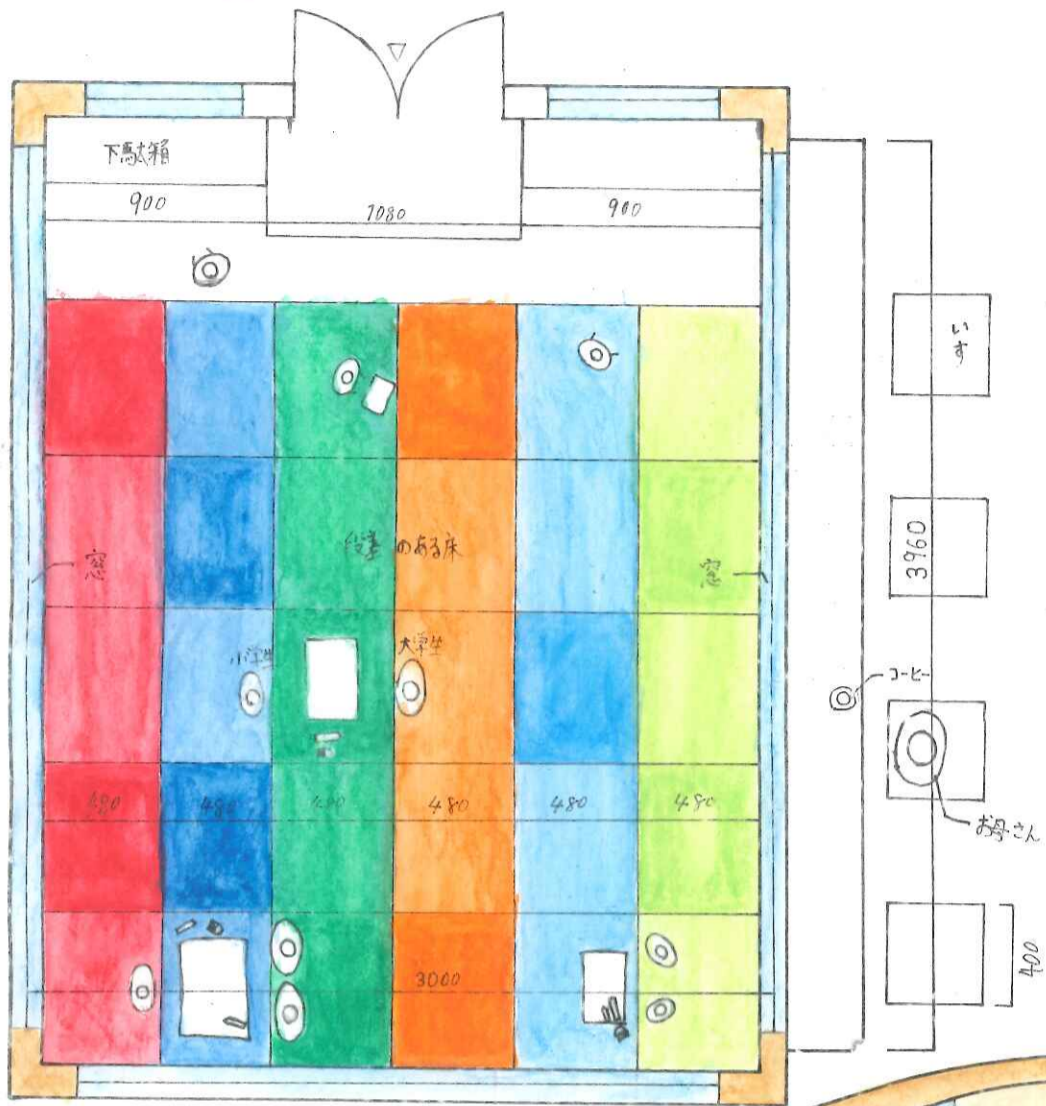
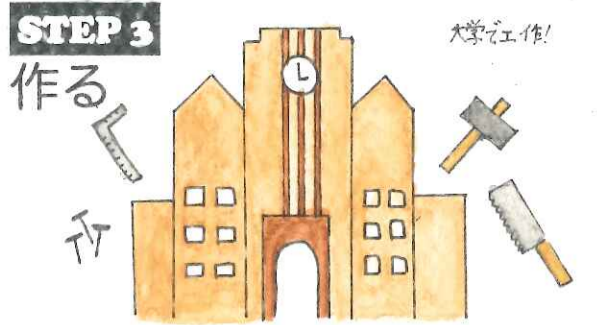
手すりが見えるだろうが、手すりの下にはライトが取り付けられている。昼間、屋根にとりつけられた太陽光パネルで蓄えられたエネルギーで昼間とは違った一面を見せてくれる。放課後にも皆が集まることのできる空間になれば幸いだ。

### その他...

一階には黒板を設置してある。ここにはポスターであったり、パンフレットを置くのに活用してほしい。子どもたちのお絵描きスペースでも良いだろう。また、壁の裏は自動販売機を設置している。



※太陽光パネルは省略してある。



**mono Go!!**

# 大学に行こう!

～地域で取組むものづくり～

私には3つ上のお姉ちゃんがいいます。小学校の時、ある用事でお姉ちゃんの教室に行く事がありました。同じ学校なのに、違う学年の教室には入りにくくて「壁」を感じました。

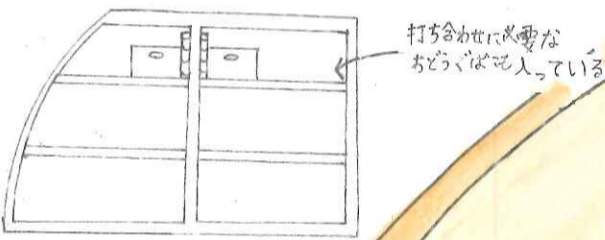
きっとこの地域の人たちも同じように近くにある大学なのに、行きづらさを感じているのではないのでしょうか。そこで今回は、近くにある大学がもっと近い存在になる場所を作りたいと思います。

大学では毎日、ものづくりが行われています。今回の施設は、その大学生の技術を地域の子ども達に披露する施設です。子どもにとっては、ものづくりができる遊び場。大学生にとっては、自分の知識が披露できる学び場。そして大学にとっては、地域の人が大学に来てもらいやすくなる。玄関のような場所になります。

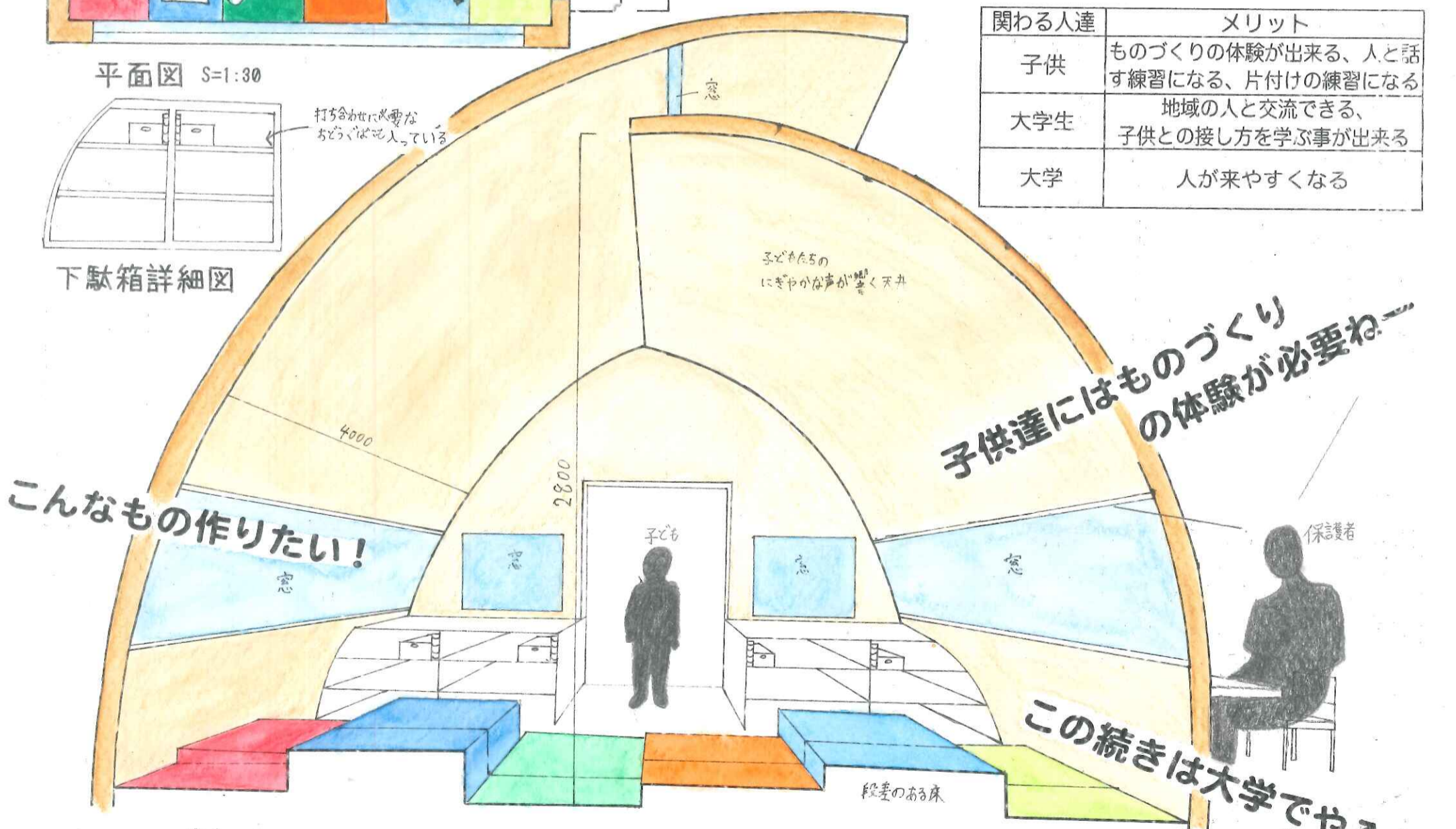
この施設があることで、毎日がオープンキャンパスになることを期待します。

関わる人達	メリット
子供	ものづくりの体験が出来る、人と話す練習になる、片付けの練習になる
大学生	地域の人と交流できる、子供との接し方を学ぶ事が出来る
大学	人が来やすくなる

平面図 S=1:30



下駄箱詳細図



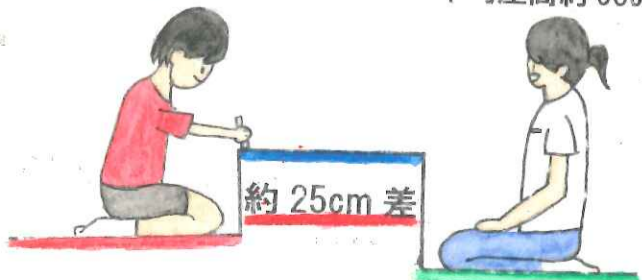
子供達にはものづくりの体験が必要ねー

この続きは大学でやろう!

小1  
平均座高約 65cm

大人  
平均座高約 90cm

内観パース S=1:15



床の段差で目線が合う



# 光と海の 休憩所



## スタンドグラス

- ・ 昼間や晴れているときは色を鮮やかに映す
- ・ スタンドグラスには癒しの効果、青色には安らぎを与える効果がある



ゴミ箱



## ペンギンボード



- ・ ペンギンがホワイトボードを持っているデザイン
- ・ 地域や学校のイベントの宣伝ができる

## 360° 掲示板



- ・ 360°ポスターを貼れるのでどこからでも見ることができる掲示板
- ・ どこからでも見えるので多くの人の目に入る
- ・ 座りながらでも見えるので、疲れているときに掲示板まで歩く必要がない

## でこぼこソファ

やわらかい  
ビーズクッション

でこぼこは押すと  
移動する

人との間隔を  
作る事ができる

内側を向いても  
座れる

でこぼこを移動させ  
背もたれにすることも  
できる

でこぼこの移動の仕方によって  
色々な座り方をすることが出来る

カバーや脚は地域の  
海洋ゴミをリサイクルして作ったもの

## コンセプト

地域の海洋ゴミを使った家具を設置したり、休憩しに来た人を光や色で癒したりすることで、地域の海にも人にもやさしい休憩所にしました。

また、海洋ゴミをリサイクルしたり、海をイメージしたデザインを取り入れたりすることは、海をきれいにするという意識を持ってもらうことにつながるのではないかと考えました。



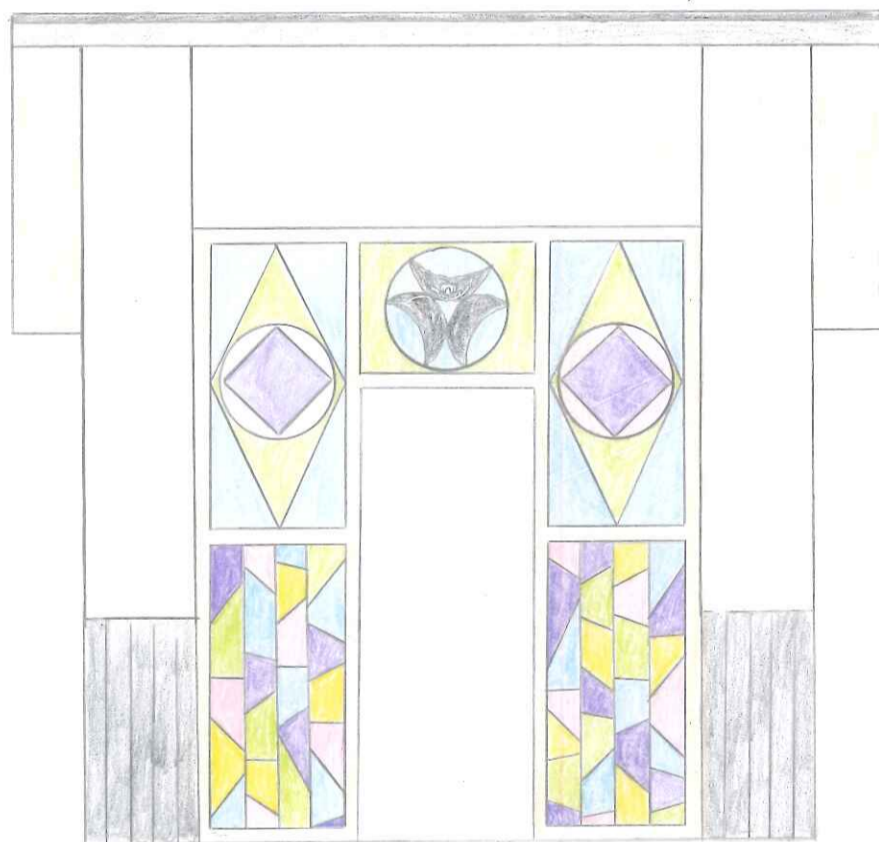
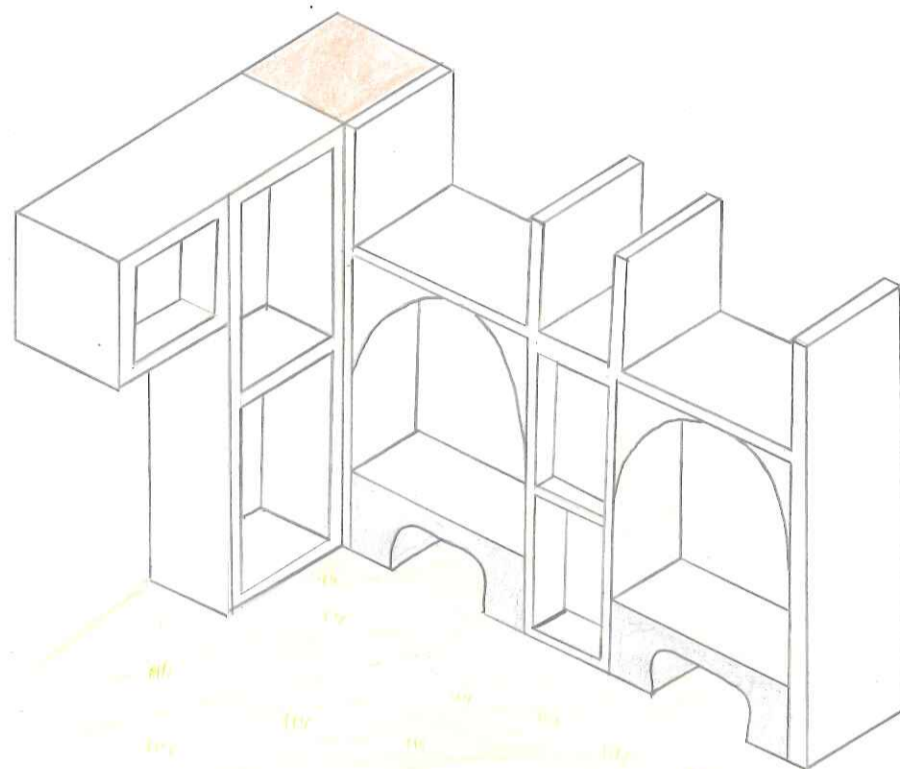
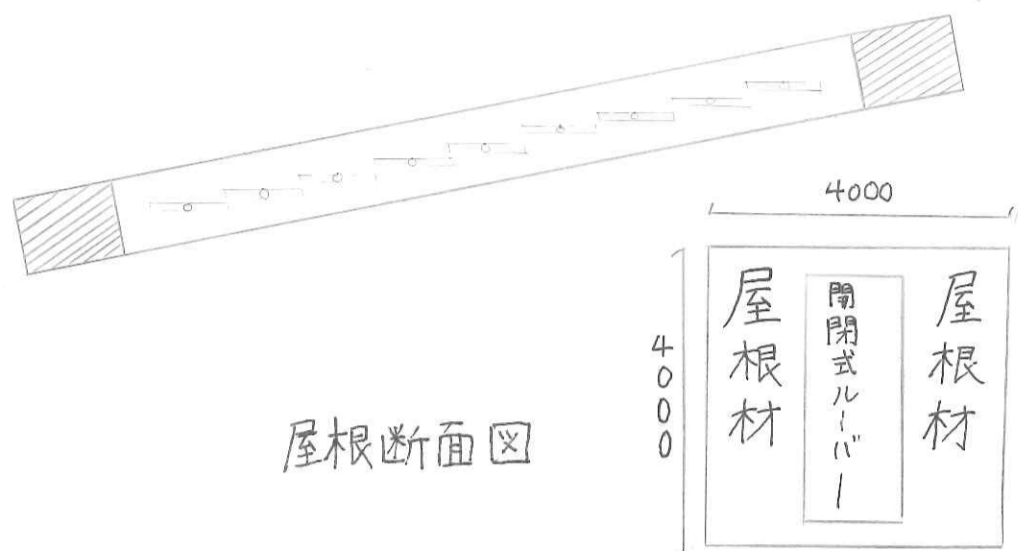
# 光に照らされる

## 風の道

今回のテーマである「キャンパスと地域を結ぶ場」を形にするために、長崎の特色を取り入れるとともに屋外という事もあり光や風について重点的に考え過ぎしやすい空間を作成しました。スタンドグラスやベンチ上をアーチとすることで教会のような空間を作りました。

### 屋根の特徴

時間によってルーバーの角度を変えることで採光量の調整を行うことができる



### ◎ スタンドグラスの意味

長崎の大浦天主堂にも設置されており歴史の面でも深いつながりがあります。日光が入ってくる東側に設置することにより休憩所内にもスタンドグラスを通した日光が入り視覚的にも楽しめます。

### ◎ 工夫した点

壁を櫛の格子状の枠組にすることにより室内に風が循環するようにし、過ぎしやすい空間としました。またベンチの隣の枠組には、掲示板やパンフレットを置けるようにしました。

### ◎ ルーバーの交効果

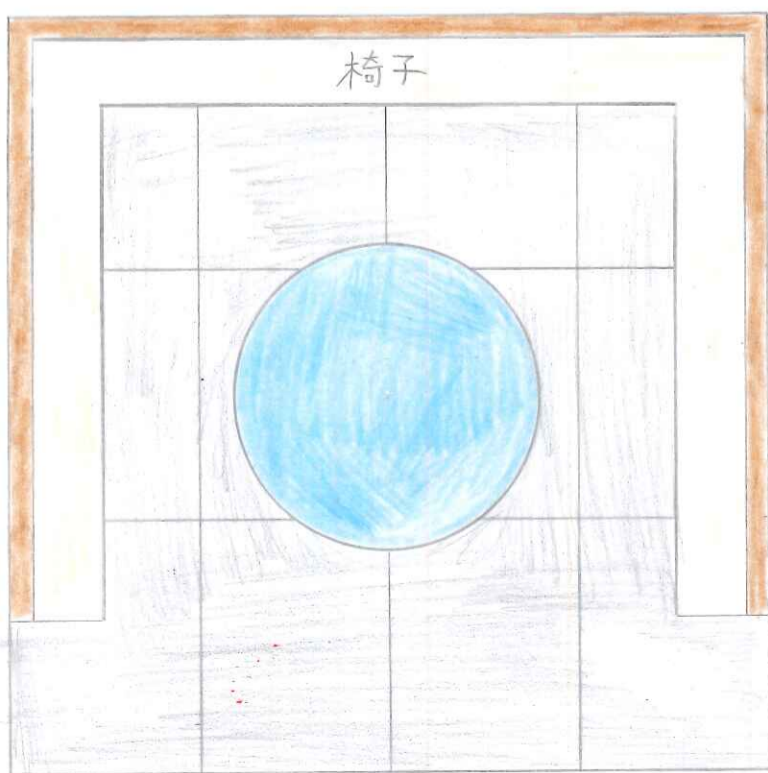
開閉式にすることにより日中は適度な採光雨天時は屋根の役割を果たします。また強すぎる日差しを防ぎ室内の温度を保つ役割もあり風の通り道ともなるので、過ぎしやすい環境をつくることができます。

### ◎ 木材の交効果

湿気や乾燥に強く腐りにくいいため屋外であっても長期的な使用ができるとともに、木材由来の成分によるリラックス効果もあるため、人体に優しい材料となっています。木材は紫外線を吸収するため、反射する光にはほとんど紫外線が含まれず、目に与える刺激も小さくなります。

# ガーデンアクアリウム

- 地域の人、学生、観光客が集い、リラックスできる場所
- 地域や大学内のイベントなどの情報を共有できる場所



アクアリウムセラピー効果により、水中で揺らぐ水草や泳ぐ魚を見ていると、リラックス効果を得られる。

壁にポスターなどを掲示すれば、地域や学校のイベントなどの情報を共有することができる。